



特集

「肛門科」手術について

痛くない日帰り手術(硬化療法)

痔には大きく分けていぼ痔(内痔核)、あな痔(痔瘻)、きれ痔(裂肛)の3つのタイプがあります。

それらを肛門病の3大疾患と呼んでいます。ここでは、ジオン注を中心に紹介します。

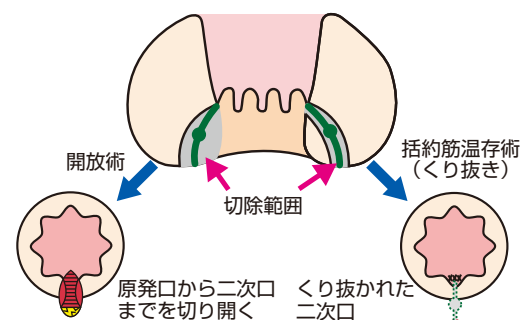


あな痔(痔瘻)

手術療法

細菌感染により、直腸や肛門周囲が化膿して起こる病気です。瘻管(※)を切り開く開放術と、瘻管のみを切り取り肛門の筋肉を残す温存術があります。

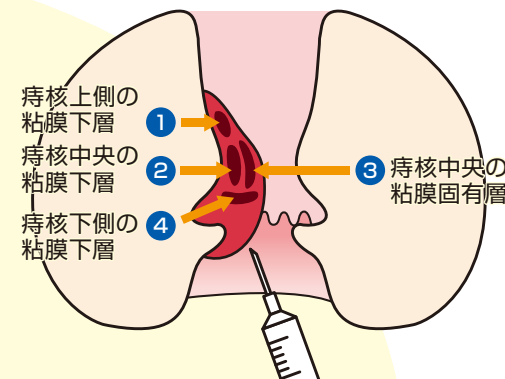
※瘻管：直腸と肛門がつながった膿の管



いぼ痔(内痔核)

硬化療法

ひとつの痔核に対して、図のように4か所に分割して投与します。これは痔核に薬液を十分に浸透させるための方法で、四段階注射法といいます。



メリット

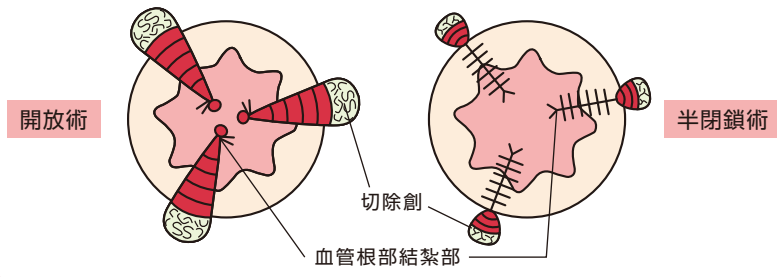
- ・注射時、注射後の痛みがありません。
- ・日常生活(入浴など)の制限はありません。
- ・軽い内痔核では日帰りで行うこともできます。
- ・入院の場合でも2~4日の短期間で済みます。
- ・特殊な仕事を除き就業できます。(日帰りの方は翌日就業可能です)

デメリット

- ・再発率は16%(従来のいぼ痔手術では2%)です。ただし、再発しても再度、外来で硬化療法を行うことが可能です。
- ・硬化療法後、10日ごろすると発熱が見られることがありますが、2~3日で解熱します。
- ・すべての症例が適応ではありません。

手術療法

直腸肛門部の血行が悪くなり、血管の一部がふくれあがります。肛門病の3大疾患の中で、一番多い病気です。根治手術は、いぼ痔の奥の血管をしぼって切除します。



きれ痔(裂肛)

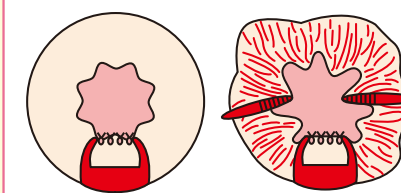
手術療法

硬い便や肛門内部の炎症により、傷がついたものです。肛門狭窄(※)を広げる手術方法(SSG法)と、きれ痔の部分を浅く切除し、肛門を広げる手術方法(LSIS法)があります。

※肛門狭窄：肛門がせまくなる状態

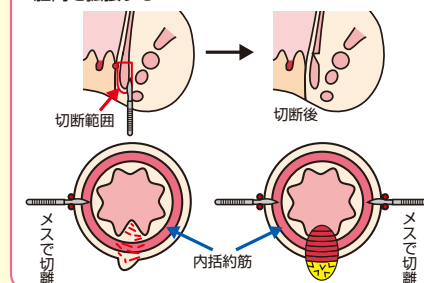
SSG法

皮膚弁移動術



LSIS法

齒状線以下の内括約筋をメスで切断し肛門を拡張する



ドクターから一言

すみ 家田 純郎

内痔核脱肛にたいして、日帰り入院による硬化療法を行っております。朝に来院し夕方に帰宅していただくことが可能となります。肛門周囲に局限した麻酔をし、内痔核に薬を注射することで痔核を硬化させることにより脱出や出血の改善をはかります。

症状は気になるが、なかなか根治術を行う時間が取れない方に喜んでいただけるかと思います。内痔核の状態によってはご提案できない症例もございますので、外来にてご相談ください。